

# 2017年3月期 第3四半期決算概要



日進工具株式会社

2017年1月31日  
(証券コード6157)

# 目次

## 1. ブランディングについて

---

## 2. 2017年3月期3Qの業績

P. 9	...	第3四半期決算の概要
P. 10	...	営業利益の増加要因
P. 11	...	損益計算書サマリー
P. 12	...	貸借対照表サマリー
P. 13	...	四半期業績推移

---

## 3. 2017年3月期の業績見通し

P. 20	...	業績見通し
P. 21	...	第3四半期における進捗状況
P. 22	...	2017年3月期の重点戦略
P. 23	...	配当予想

---

## < 参考資料 >

P. 25	...	過去5年間の業績と 主要データ推移
P. 26	...	投資指標
P. 27	...	株価推移とバリュエーション
P. 28	...	I R 情報サイトのご案内

---

# ブランディングについて



# 日進工具は株主重視の姿勢を貫いています



日興アイ・アール「上場企業ホームページ充実度ランキング調査」で総合「優良サイト」、新興市場「最優秀サイト」に3年連続選定

- 日進工具は業績に応じた「増配」に加え、「記念配当」や「中間配当」の実施など、株主の皆様への還元を行ってまいりました。また2017年3月期より「株主優待」を導入いたします。
- また、2015年6月には「監査等委員会設置会社への移行」を行い、ガバナンスの強化にも力を入れています。
- さらに、「立会外分売」や「株式分割」により、株式の流動性を高めることにも力を注いでいます。
- 今期、より多くの方々に弊社の認知度を高めることを意図したブランディングを実施。新たなコーポレートシンボルを導入し、11月17日から開催された展示会「JIMTOF2016」において、大々的にPRいたしました。

# JIMTOF2016 当社ブース



# さらなる認知度の向上を目指しブランドを見直しました

【コーポレートシンボル】（ブランドロゴマーク）



【ブランドビジョン】（私たちが目指すべき提供価値）

## “イノベーションを具現化する日進工具”

企業や技術者の、胸躍る夢やひらめきをカタチに。

日進工具は、これまでにない「金型」や「部品」を生み出すエンドミルを創造し、次なるイノベーションを支えていきます。

【ブランドステートメント】（ブランドコミュニケーションの核となる言葉）

## “「つくる」の先をつくる”

いつの時代も、私たちの根底にあるのは、「日本のモノづくりを支える」誇りです。

超硬小径エンドミルのリーディングカンパニーとして、お客様や社会のニーズに応える高付加価値製品を生み出すこと。

自らが打ち立てた技術水準に絶えず挑戦し、時代を先取る革新的なソリューションを創造していくこと。

最先端のその先に行く技術と品質、サービスを、未来へ、世界へ。

私たち日進工具は、無限に広がるモノづくりの夢と可能性を切り拓きます。

# ブランディング実施の目的と成果

1

## 日本に、世界に【日進工具】を知ってもらう

世界のトップクオリティー、唯一無二の日進工具の品質を知ってもらう。  
また同時に、Made in Japan BRANDを下支えしている企業であることを広く、日本そして世界に知ってもらう。

2

## 【日進工具】の良さを理解してもらう

日進工具のクオリティーは単に製品の品質だけではなく  
当社が育んできた「SOFT HARD HEART」の融合から生まれることを多くの方に理解してもらう。  
日進工具の強みと魅力をより深く理解してもらう。

3

## 【日進工具】の共感の輪を広げ、ファンを創る

既存のお客様はもちろん、これから接点の広がるお客様に対して、日進工具の支持を高め、ファンになってもらう。  
日進工具の目指すべき世界に、多くの方々からの共感を育て、日進工具なら間違いないとの信頼感を構築する。  
なくてはならない存在になる。

4

## 【日進工具】が真のブランドとなる

顧客、社会、従業員からのさらなる信頼を醸成し広げる。  
日進工具のブランドが広く認知され、ブランドの志が理解される。  
価格が高くても指定購買が高まる。（リピート率の向上、高付加価値、収益性向上）

5

## 【日進工具ブランド】の成長と、さらなる社会貢献を行う

ブランドロイヤリティーの向上、スパイラルアップ。（好循環の創造）  
社員に誇りが育まれ、モチベーションと意識が向上する。優秀な人材が確保しやすくなる。品質のさらなる向上。  
これまでにない「金型」や「部品」を生み出すエンドミルを創造し、次なるイノベーションを支える。

# IRにおけるブランディングの意味

- 従来から、技術力が高く、高品質の製品を提供する企業として「知る人ぞ知る日進工具」ではありましたが、この業界を離れたときの認知度はさほど高くありませんでした。
- ブランディングは、株主や投資家の皆様に対する認知度の向上はもちろん、顧客や潜在顧客に対する認知度の向上、さらには当社の社員や社員の家族に誇りを持ってもらうためでもあり、また、将来の当社を担う人たちに対するリクルーティングのためのメッセージでもあります。
- 従来から実施してきた「株主還元」「ガバナンスの透明化」「流動性の向上」の施策に加え、「ブランドの刷新」により、株主を増やし、より多くの投資家の皆様に支持していただける企業を目指すというメッセージを打ち出して行きたいと考えています。



**2017年3月期  
第3四半期の業績**



# 第3四半期決算の概要

売上高経常利益率は23.9%と高い水準

(百万円)

	2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	通期予想	進捗率
売上高	6,329 ( +15.7% )	6,593 ( +4.2% )	8,480 ( +1.2% )	77.8%
営業利益	1,498 ( +38.6% )	1,578 ( +5.4% )	1,940 ( +1.3% )	81.4%
経常利益	1,534 ( +37.0% )	1,577 ( +2.8% )	1,980 ( +1.3% )	79.7%
四半期純利益	1,021 ( +39.4% )	1,069 ( +4.7% )	1,350 ( +0.5% )	79.2%

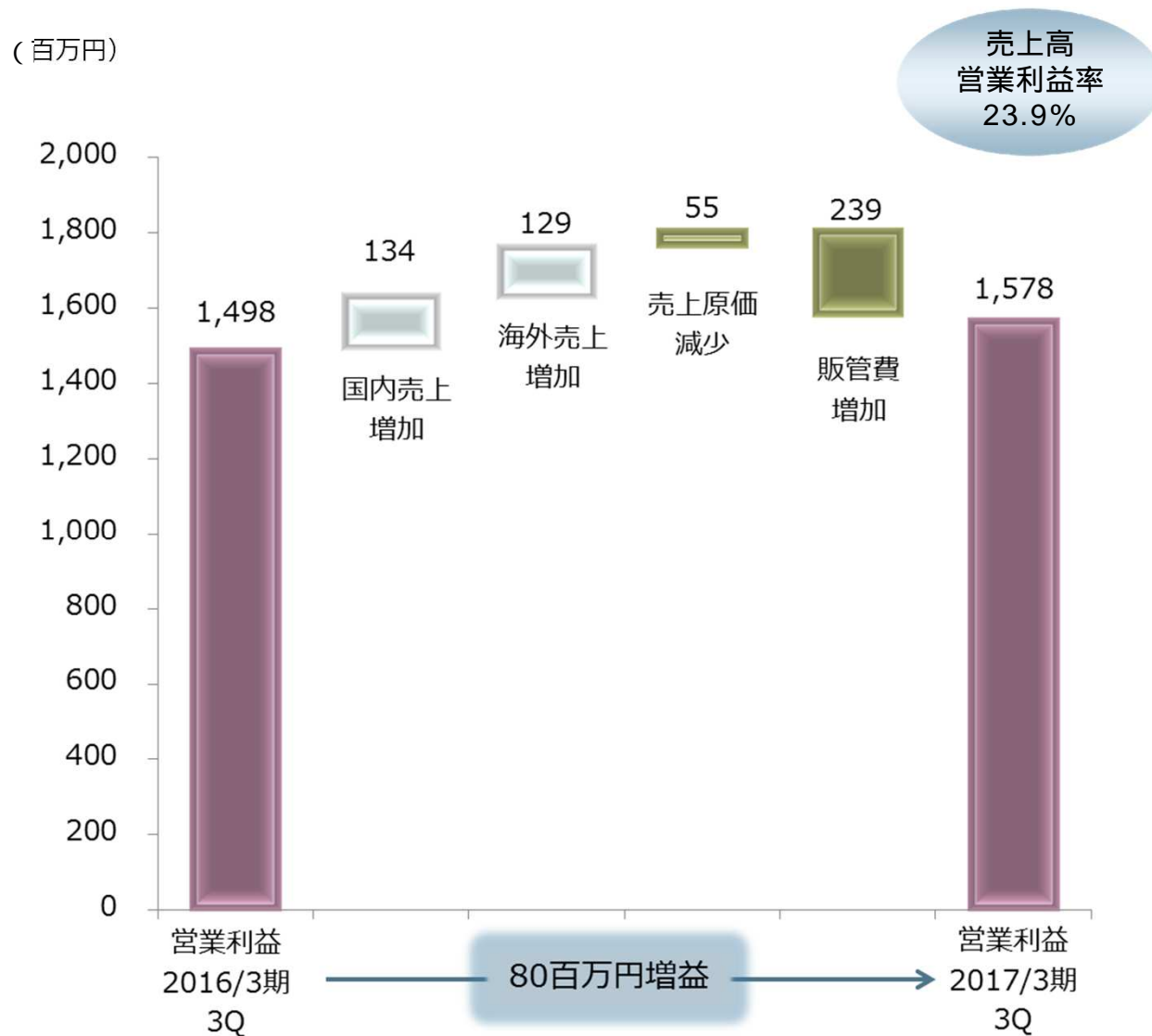
( )内は前年同期比増減率

円高による輸出企業の採算悪化やそれに伴う設備投資の抑制等から、工具需要全体としてはやや弱含む場面もあったが、新車投入効果や米国向けの好調等から自動車関連が底堅く推移したほか、電子部品関連もスマートフォン向けや自動車のインテリジェント化に伴う車載関連の拡大等から回復し、小径エンドミル需要は概ね順調に推移した。

第3四半期累計の連結売上高は、前年同期比4.2%増の6,593百万円、連結経常利益は同2.8%増の1,577百万円。

展示会 (JIMTOF2016) や総合カタログに係る費用により、売上高経常利益率は23.9%と前年同期に比べ0.3ポイント低下。

# 営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期比134百万円、2.8%のアップ、また海外売上高は同129百万円、8.8%のアップとなった。なお売上高全体では263百万円、同4.2%の増加であった。

263百万円の売上高増加に対して、売上原価は55百万円の減少。前期まで非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や期首に比べ製品在庫が89百万円増加した影響等による。

販管費は2年に1度開催されるJIMTOF(日本最大の工作機械関連見本市)への出展費用や総合カタログに係る費用等から13.0%増加。

営業利益は1,578百万円と80百万円、5.4%増加し、売上高営業利益率は0.2ポイント上昇の23.9%となった。

# 損益計算書サマリー

(百万円)

	2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	前年同期比	コメント
売上高	6,329	6,593	+4.2%	小径エンドミルはスマートフォンや車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ、概ね順調に推移。
売上総利益 (率)	3,340 (52.8%)	3,660 (55.5%)	+9.6%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や製品在庫の増加等により、売上総利益率は55.5%に上昇。
販管費 (率)	1,842 (29.1%)	2,081 (31.6%)	+13.0%	展示会 (JIMTOF 2016) や総合カタログに係る費用等から販売管理費は13.0%の増加。
営業利益 (率)	1,498 (23.7%)	1,578 (23.9%)	+5.4%	販売管理費が増加したものの、売上総利益の増加により営業利益は5.4%増加し、売上高営業利益率も23.9%と0.2ポイント向上。
経常利益 (率)	1,534 (24.2%)	1,577 (23.9%)	+2.8%	営業外費用はほぼ横ばいであったが、従来非連結であった子会社の連結化による受取配当金の減少等から営業外収益が16百万円減少。
四半期純利益 (率)	1,021 (16.1%)	1,069 (16.2%)	+4.7%	
設備投資額	913	565	-38.1%	前期は新工場棟の竣工に向け、機械設備の導入を通常よりも増加させたが、当期は通常に戻している。
減価償却費	354	460	+29.9%	前期の新工場棟建設や設備の積極導入により、当期の減価償却費は上昇。
従業員数	276人	314人	+13.8%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことに加え、営業や工場で人員強化のため中途採用を実施。

( )は売上高に対する比率

# 貸借対照表サマリー

(百万円)

	2016年 3月期	構成比	2017年 3月期3Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	6,978	61.4%	7,408	62.5%	+6.2%
現金及び預金	3,898	34.3%	4,259	35.9%	+9.3%
受取手形及び売掛金	1,332	11.7%	1,310	11.1%	-1.7%
棚卸資産	1,467	12.9%	1,577	13.3%	+7.5%
固定資産	4,393	38.6%	4,450	37.5%	+1.3%
有形固定資産	3,893	34.2%	3,966	33.4%	+1.9%
無形固定資産	147	1.3%	126	1.1%	-14.2%
投資その他の資産	353	3.1%	357	3.0%	+1.4%
資産合計	11,371	100.0%	11,858	100.0%	+4.3%
(負債の部)					
流動負債	1,355	11.9%	1,100	9.3%	-18.8%
買掛金	272	2.4%	222	1.9%	-18.4%
固定負債	446	3.9%	467	3.9%	+4.7%
負債合計	1,802	15.8%	1,568	13.2%	-13.0%
(純資産の部)					
純資産合計	9,569	84.2%	10,290	86.8%	+7.5%
負債・純資産合計	11,371	100.0%	11,858	100.0%	+4.3%

流動資産は、現預金や棚卸資産の増加により前期比6.2%増加。

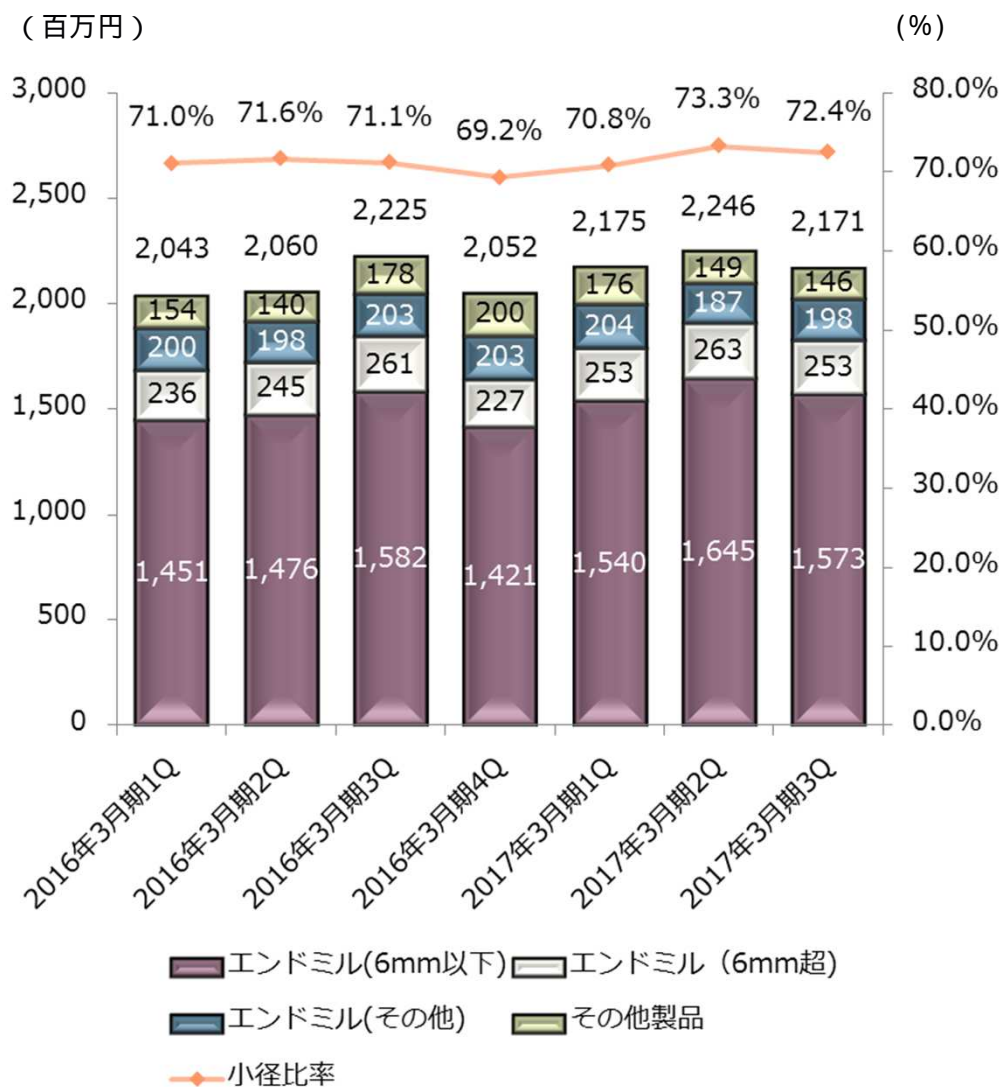
固定資産は、機械設備の増加を主因に同1.3%増加。

負債は、未払法人税等や賞与引当金の減少等から同13.0%減少。

純資産は、利益剰余金の増加等から同7.5%増加、自己資本比率は86.8%となり2.6ポイントアップ。

# 四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

## 製品別売上高と小径比率の推移



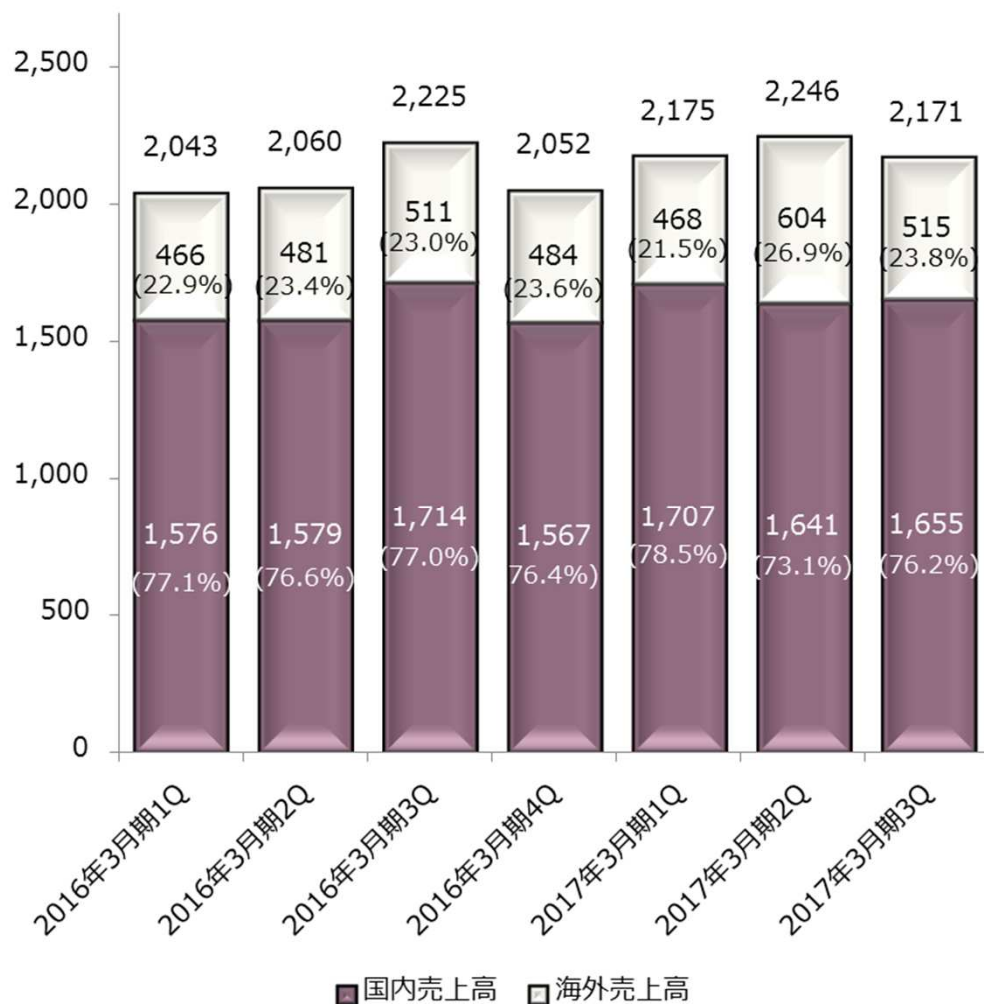
熊本地震によるサプライ・チェーンの寸断等から一時的に減産となった自動車関連が、新車投入効果による国内販売台数の増加や海外向けの好調継続から活況となった他、スマートフォンの高機能化や部品点数の増加に加え車載向けが拡大している電子部品関連も持ち直し、小径エンドミル需要は概ね順調に推移した。ただし、日進工具香港（海外子会社）の連結に当たり3ヶ月のタイムラグがあるため、当四半期の連結売上高は、前四半期に比べ3.3%の減少となったほか、水準の高かった前年同期に比べても2.4%の減少であった。

製品別では、エンドミル（6mm以下）が前年同期比0.6%、前四半期比では4.4%となり、小径比率は72.4%と前四半期の73.3%から0.9ポイント低下した。

# 四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

## 国内・海外売上高の推移

（百万円）



海外売上高は515百万円と前四半期に比べ14.7%の減少となったが、最も量の多い中国・香港向けは、日進工具香港を経由することから連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生しており、当四半期はやや低迷した7-9月の数値が反映されている。

国内売上高は1,655百万円と前年同期比3.4%の減少となったが、水準としては高く前四半期比では0.9%の増加と底堅い動きが継続している。

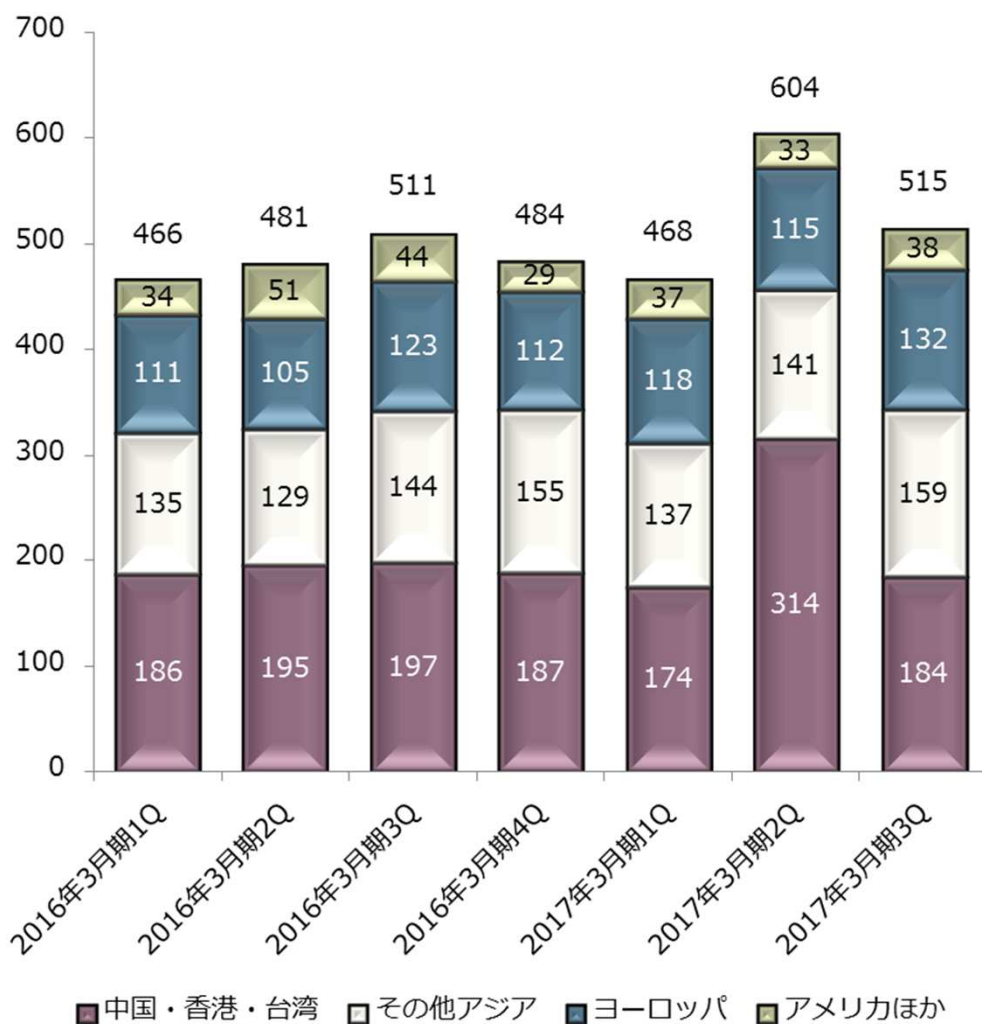
海外売上比率は前四半期の26.9%から23.8%へ3.1ポイント低下。中国向けの変動の影響が大きかった。



# 四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

## 海外地域別売上高の推移

（百万円）



中国・香港・台湾ではスマートフォン関連のウェイトが大きいが、最も量の多い中国・香港向けは、日進工具香港を経由することから連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生している。4-6月において新機種向けの金型需要等が膨らんだが、それが一巡した7-9月期は元の水準に戻ってしまい、前四半期比41.2%の減少となった。

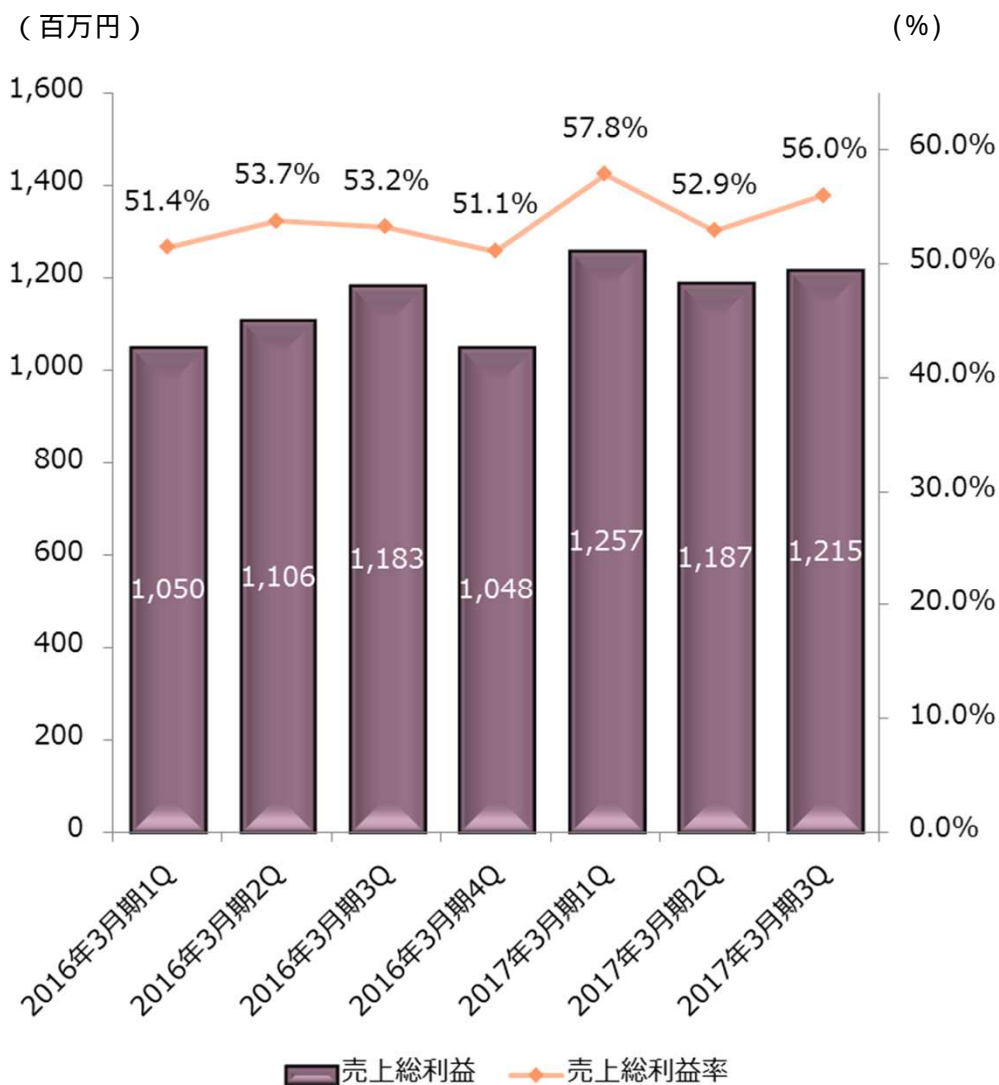
東南アジアはタイの自動車関連向けが牽引し増加傾向となった。

ヨーロッパは引き続き落ち着いた動きが継続、アメリカほかは絶対量も少ないが、前年度の第4四半期以降低調な推移となっている。



# 四半期業績推移（売上総利益の推移）

## 売上総利益と売上総利益率の推移

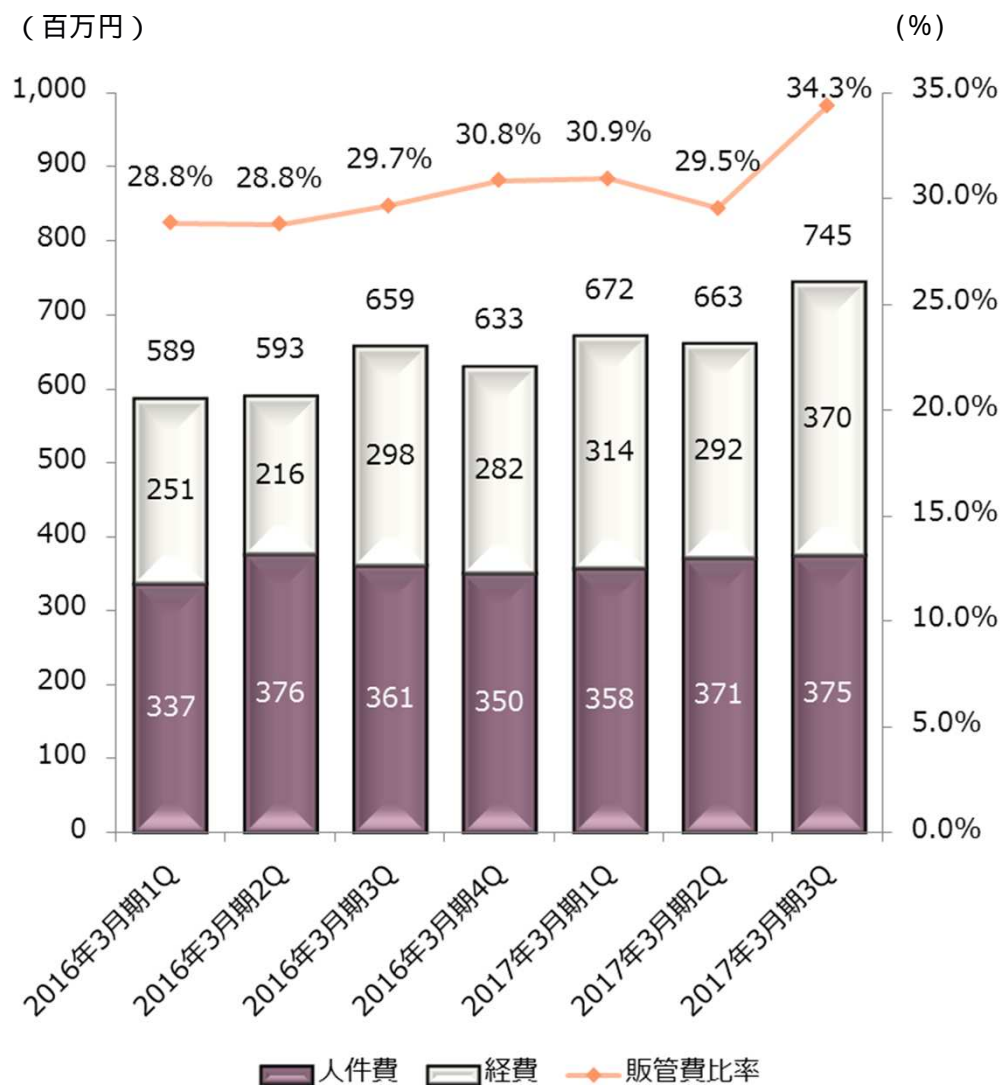


売上高は前四半期を3.3%下回ったものの、売上原価が同9.7%減少したことから、売上総利益は同2.4%増の1,215百万円となった。売上総利益率も、日進工具香港の連結に伴う特殊要因から原価率が低めとなった第1四半期の57.8%には届かなかったものの、56.0%と高水準。

材料費や外注加工費といった変動費が太径の増産や新製品の投入により増加した一方、労務費が賞与引当金の積み増しを行った前四半期に比べ9.3%減少したほか、工場消耗品費等の製造経費も1.8%減少したため、製造原価は同3.5%の減少となった。更に日進工具香港の連結に伴う原価の減少分が加わり、売上原価は同9.7%の減少となった。

# 四半期業績推移（販管費の推移）

## 販管費と販管費比率の推移



販売管理費では、日本最大の工作機械関連見本市であるJIMTOFへの出展により展示会費が前四半期比5倍の水準となった他、毎回JIMTOFに合わせて改定する総合カタログの費用も加わり、一般経費が同26.7%増加したことから、全体で745百万円と同12.5%の増加となった。今回のJIMTOF及び総合カタログは、今年度スタートしたブランディングにおいても重要な部分となるため特に力を入れたこともあり、前回のJIMTOFがあった2015年3月期の第3四半期に比べても、一般経費は35.7%の増加となっている。

このため、売上高販管費比率は34.3%と、前四半期に比べ4.8ポイント上昇した。

# 四半期業績推移（経常利益の推移）

## 経常利益と売上高経常利益率の推移



売上高は前四半期に比べ3.3%の減少となったが、売上原価が同9.7%減少したため、売上総利益は同2.4%の増加となった。

しかしながら、販売管理費が同12.5%増加したため、営業利益は469百万円と同10.4%減少、前年同期でも10.4%の減少となった。

同様に経常利益も458百万円と前四半期比13.6%の減少、前年同期比13.1%の減少であった。

これにより、連結での売上高経常利益率は21.1%と目標に掲げる20%は上回ったものの、前四半期に比べ2.5ポイント低下した。

# 2017年3月期の業績見通し



## 業績見通し

(百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,382	8,480	+1.2%	自動運転等の進展により車関係の需要は期待できる一方、主力スマートフォンの2016年モデルはやや低調との見方もあり、全体として下期はやや伸び悩むと想定。
営業利益	1,914	1,940	+1.3%	売上高に連動して若干の増加を想定。
経常利益	1,954	1,980	+1.3%	同上
当期純利益	1,342	1,350	+0.5%	同上
設備投資額	1,295	706	-45.5%	前期は新工場棟建設で増えたが、今期は通常の設定投資のペースに戻る。
減価償却費	505	635	+25.9%	前期の新工場棟建設や設備投資強化の影響が今期より本格化する。
EPS	107.38円	107.97円	+0.5%	
1株当り配当金	25円	35円	+40.0%	利益は微増に留まる見込みであるが、株主還元強化の一環として増配を予定。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

## 第3四半期における進捗状況

(百万円)

	2016年3月期 3Q累計	2017年3月期 3Q累計	通期予想	進捗率
売上高	6,329 ( +15.7% )	6,593 ( +4.2% )	8,480 ( +1.2% )	77.8%
営業利益	1,498 ( +38.6% )	1,578 ( +5.4% )	1,940 ( +1.3% )	81.4%
経常利益	1,534 ( +37.0% )	1,577 ( +2.8% )	1,980 ( +1.3% )	79.7%
四半期純利益	1,021 ( +39.4% )	1,069 ( +4.7% )	1,350 ( +0.5% )	79.2%

( )内は前年同期比増減率

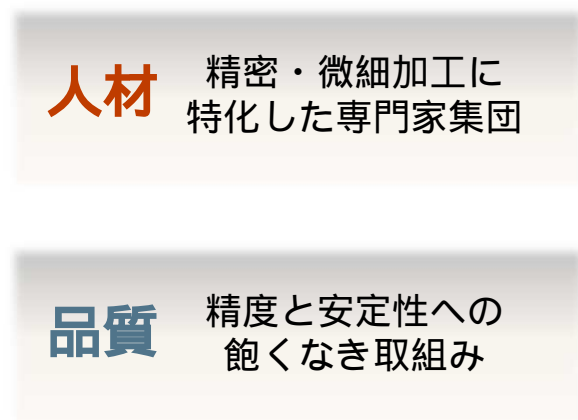
売上高は77.8%とほぼ計画通りに進捗している。

利益面では、営業利益で81.4%と売上高に比べ進捗率が高くなっているものの、毎期第4四半期において賞与引当金の積み増し等、費用が上積みされるケースが多く、当期も利益面で順調に推移していることから、それらの上積みが見込まれるため、通期業績予想の修正は行っていない。

# 2017年3月期の重点戦略



**連結売上高84億円の達成  
と  
経常利益率20%の確保**



**生産**

自動化の推進  
製造技術向上による  
更なる高精度化の実現

**販売**

新規ユーザーの開拓  
既存ユーザーの深耕  
海外市場の拡大

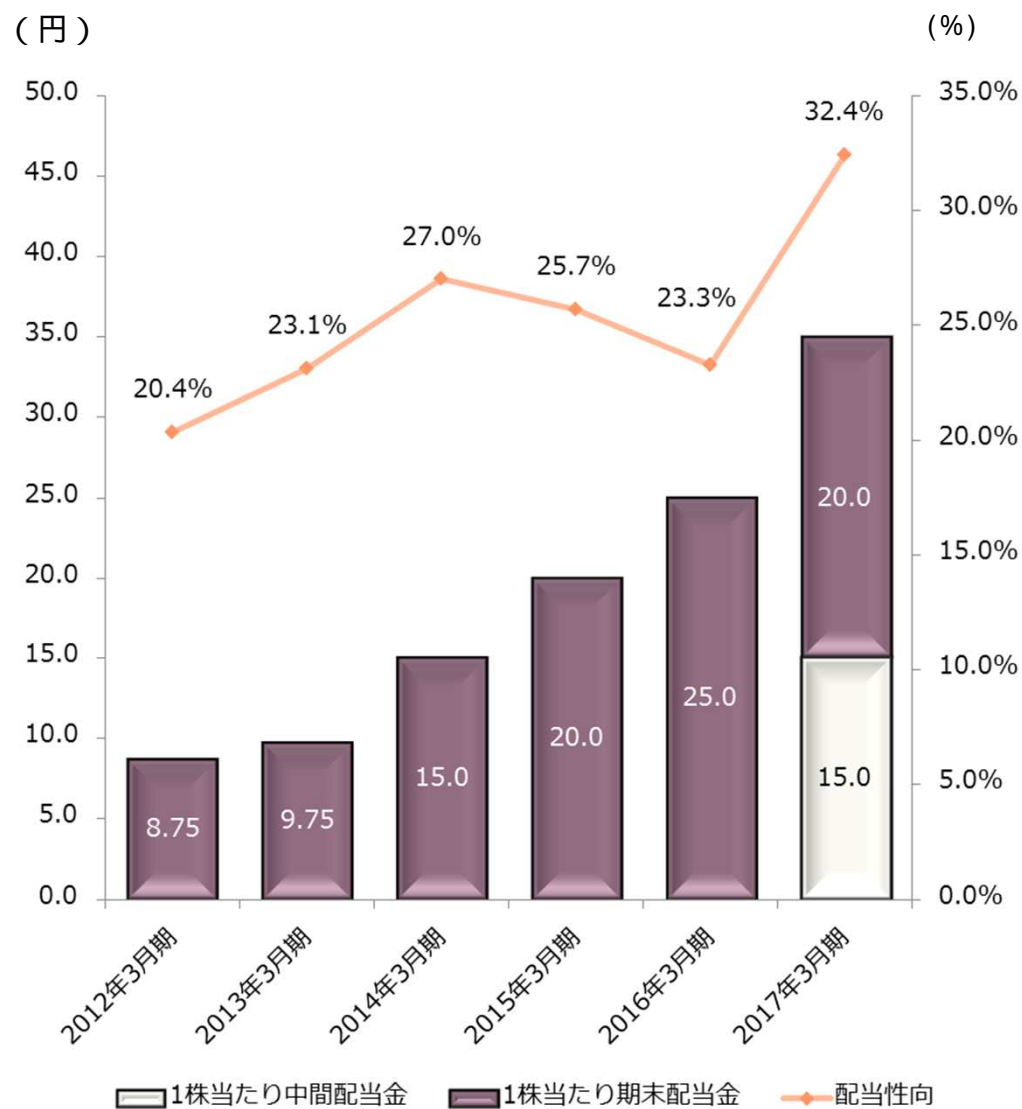
**開発**

画期的な高付加価値製品の  
開発

**持続的成長の実現**



# 配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

## 業績に応じた利益還元 （配当性向20%を目処）

- 2017年3月期より中間配当を実施  
1株当たり年間配当金は35円を予定

2017年1月1日付で普通株式1株を2株に分割したこと  
に伴い、期末配当金40円を20円に修正いたしました。  
なお2016年12月支払の中間配当金についても株式分割  
の影響を考慮しています。

- 業績予想に対する配当性向は32.4%
- 2017年3月31日より株主優待を実施  
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された  
1単元（100株）以上を保有する株主様を対象に  
オリジナルクオカード1,000円分を贈呈

自社株買いではなく  
配当にウェートを置く方針



## < 参考資料 >



# 過去5年間の業績と主要データ推移

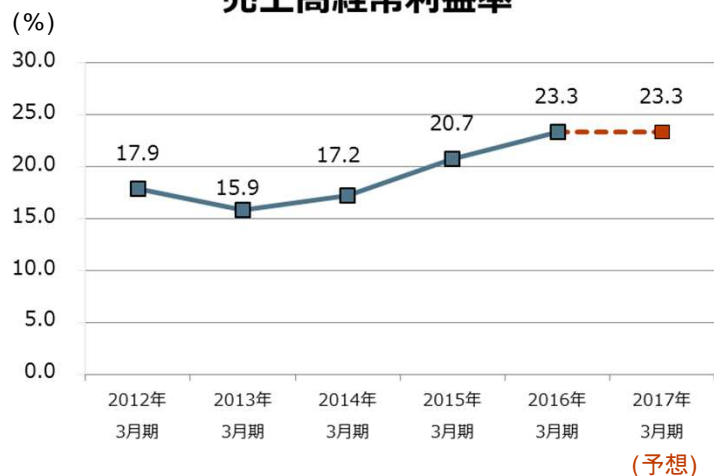
(百万円)

	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
売上高	5,781	5,997	6,418	7,402	8,382
営業利益(率)	962 (16.7%)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)
経常利益(率)	1,032 (17.9%)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)
当期純利益(率)	535 (9.3%)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)
有利子負債額					
純資産額	6,678	7,106	7,680	8,480	9,569
総資産額	7,906	8,297	9,075	10,339	11,371
自己資本比率	84.5%	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%
設備投資額	1,051	1,001	469	612	1,295
減価償却費	471	563	534	474	505
1株当たり配当金	8.75円	9.75円	15円	20円	25円
従業員数	232人	281人	284人	281人	280人

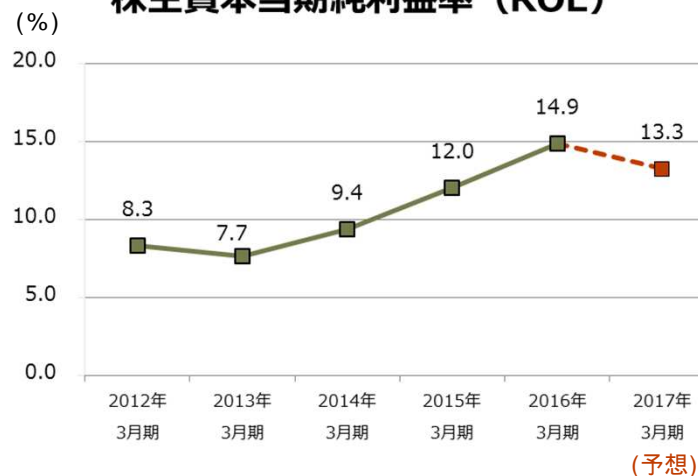
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 投資指標

売上高経常利益率



株主資本当期純利益率 (ROE)



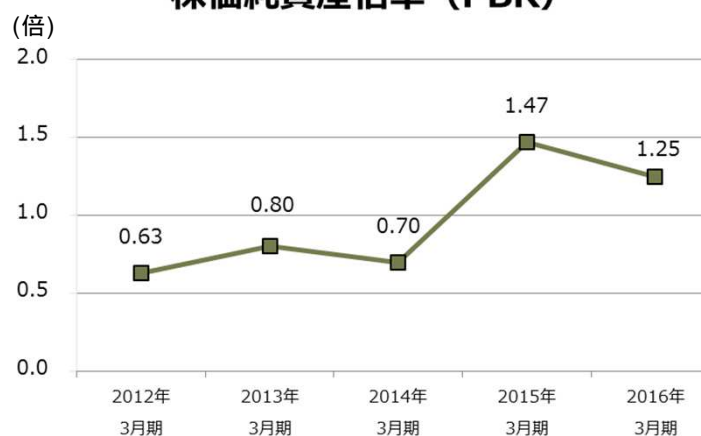
1株当たり当期純利益 (EPS)



株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)

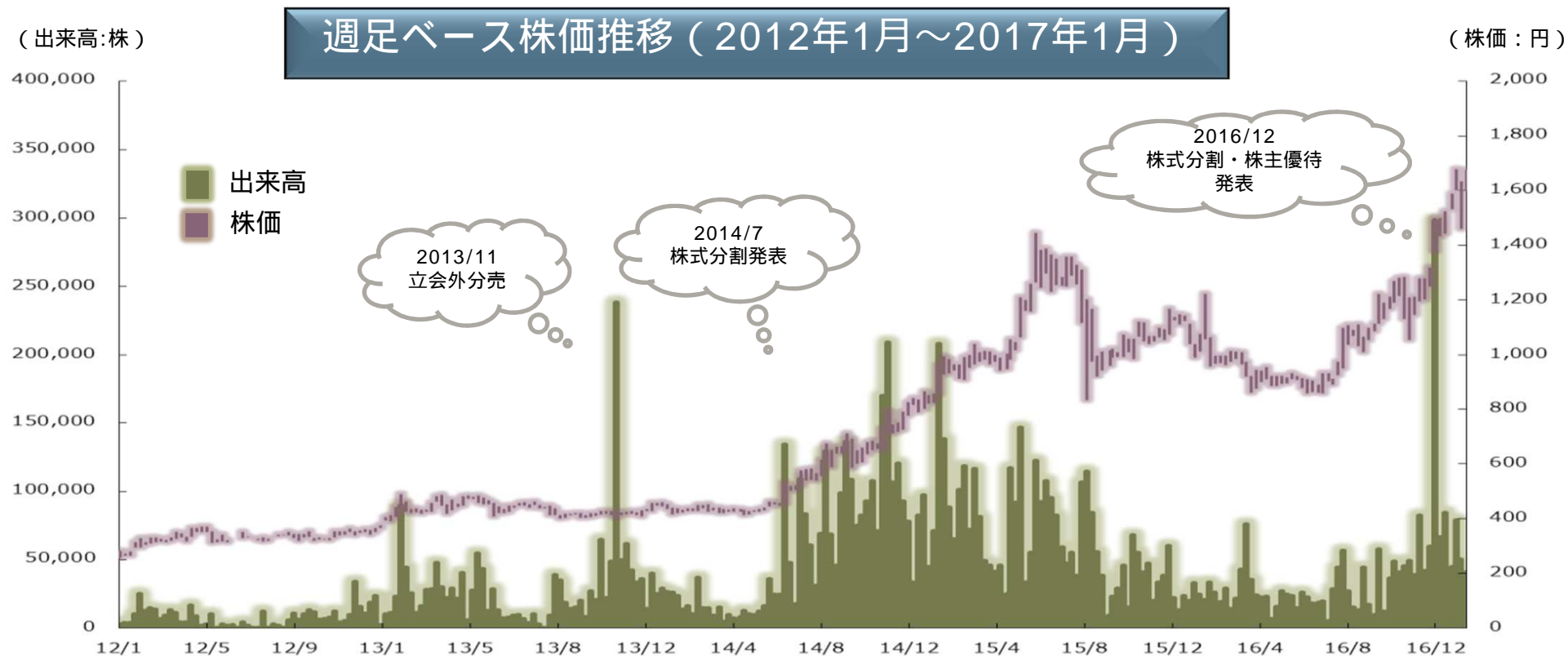


時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 株価推移とバリュエーション



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

## バリュエーション (2017年1月26日現在)

売買単位：100株

単元株価格：17万2,600円

時価総額：215億円

P E R (17/3期予想)：15.99倍

R O E (16/3期実績)：14.9%

P B R (16/3期実績)：2.26倍

# IR情報サイトのご案内

## IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

## メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます  
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

## IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

## お問い合わせ

# 日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL : 03-3763-5672  
FAX : 03-3764-8225  
E-mail : [ir@ns-tool.com](mailto:ir@ns-tool.com)

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、  
確約や保証を与えるものではありません。  
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。